

# 風光る丘

平岡中央中学校ホームページアドレス <https://www.hiraokachuo-j.sapporo-c.ed.jp>

札幌市立平岡中央中学校

学校だより

令和8年(2026年)3月16日

## 第34回 卒業証書授与式

### 式辞

校長 小関 高宏

校舎の周りに残る雪に降り注ぐ日差しから、春の訪れを感じるようになってきました。この佳き日に、第34回卒業証書授与式を挙行できますことに、心より感謝申し上げます。

さて、先ほど卒業証書を手にした、第34期卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私は、皆さんには「素直さ」という強みがあると感じています。それは、「自然体」でいることや、周囲を明るくする「天真爛漫さ」でもあり、この一年間あらゆる場面でその力が発揮されていました。

学校祭では、どの部門もクオリティの高い発表で、最高学年としてあるべき姿を下級生に示しました。合唱発表会に向けての取組では、各クラスが「合唱の完成度を高める」という共通の目標に向かって、一人一人が同じ方向を向いて集中力を発揮しました。学年リレー大会や球技大会では、頑張っている仲間を心から応援する声が、校長室に窓の外からも廊下からも響いてきました。元気いっぱいな声援から、「はじける」「はっちゃける」ことのできる、エネルギーを感じました。これは、先日のドラムサークルの体験でも発揮されていましたね。

現代の若者は、ネットへの依存心が強く、対面で直接言えないようなことでも、SNSでは言いやすいと考えるなど、リアルでの人付き合いを苦手とする人が多いと言われています。しかし、皆さんは、持ち前の「素直さ」で、周りの人の体温や心臓の高鳴りを五感で感じ取りながら自らも熱くなる経験を、中学校生活を通して得ることができました。

ところで、2011年3月11日に発生した東日本大震災から今年で15年です。卒業生の皆さんが産声を上げて間もない頃、あるいは、まだお母様の胎内にいた時の出来事です。当時、新生児あるいは胎児であった皆さんのことを、御家族はとても心配し、不安の中で大切に育てられたことと思います。今日の日を迎えたことに、あらためて感謝してほしいと思います。

これまで、修学旅行でお世話になった方へのお礼の合唱、昨日も在校生へのメッセージを込めた合唱と、合唱で想いを伝えてきましたね。そんな皆さんが、卒業生合唱として「群青」を歌うことには、大きな意味を感じます。この曲には、震災によって友人を失ってしまった悲しみ、離ればなれになった仲間を想い続けながら、前を向いてこれからの道を進んでいこうという決意が込められています。今、この場に姿は見えないけれど、一緒に卒業を迎えている仲間にも想いを馳せ、一人一人の想いをのせた卒業生合唱を届けてほしいと思います。

これからの時代をたくましく生き抜くために、視野を広げ、幅広い知識を蓄え、社会への問題意識をもって世の中と向き合える大人になってください。同時に、人の思いを受け止めることのできる人であってください。「素直さ」を武器にして、今後ますます力を蓄え、将来は立派な社会の担い手となることを期待しています。私たちはずっと皆さんを応援し続けます。

終わりになりますが、保護者の皆様、本日はお子様の御卒業、誠におめでとうございます。この三年間の本校の教育活動に対する御理解と御協力に深く感謝申し上げます。お子様の未来が、幸多きものとなりますことを心からお祈りし、式辞といたします。

## 在校生代表 送辞

3月の冷たい風の中にも、春らしい日差しを感じる今日、この平岡中央中学校を旅立たれる皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表して心よりお祝い申し上げます。

今から2年前、初めて先輩方と出会った私はまだ学校生活にも慣れておらず、毎日が不安でいっぱいでした。そんな中、先輩方と交流が始まったのは部活動でした。初めて会ったのにもかかわらず、優しく声をかけてくださり、人見知りの私は表情にこそ出ていなかったかもしれませんが、とても嬉しかったのを覚えています。その後の部活動でも、学年の枠を超えて厳しい練習を乗り越えたり、時にはふざけ合ったりと、たくさんの出来事が一つ一つの大切な思い出として心に残っています。また、先輩方は平日だけではなく、休日にも私達のために多くの時間を割いてくださいました。一緒にテニスをしたり遊びに行ったりと、ここには書ききれないほどのたくさんの思い出があります。委員会活動では、わからないことばかりで何をすればよいかわからず戸惑っていた私に、先輩方は手を差し伸べてくれました。その姿はとても頼もしく、心強いものでした。初めての行事を成功させ、共に喜び合い、達成感を味わえた時の嬉しさは、今でも忘れられません。その積み重ねがあったからこそ、今の私達があるのだと思います。私が3年生の背中を最も強く感じたのは、合唱発表会です。体育館に響く3年生の美しく迫力ある歌声は、1年生の頃からずっと憧れていました。当日の真剣な表情は今でも心に焼き付いています。平岡中央中学校の合唱の伝統が受け継がれているのは、3年生の歌声が光り輝き、私達在校生の道標になっているからだと私は思っています。

卒業生の皆さん。2年間この学び舎で同じ時間を過ごし、そばにいたことが当たり前だった皆さんと、明日から同じ場所で過ごせなくなると思うと、とても寂しいです。様々な出来事を通して、たくさんの思い出を作ってきた私達。当たり前のように思える日々は決して当たり前ではありません。一緒に頑張ろうと思える仲間がいて、一緒に楽しもうと思える仲間がいて、心を通わせることで、私達はどんな時でも力を合わせて歩んできました。これから皆さんは、それぞれの目標に向かって新しい道へと進まれると思います。ですが、私達は平岡中央中学校の生徒として、これからも心でつながっています。私達は皆さんと出会い、共に過ごすことができたことを誇りに思っています。これからの人生の中で、高く大きな壁にぶつかることもあるかもしれませんが、そんなときはかけがえのない平岡中央中学校での日々を思い出してください。私も、皆さんとの思い出や学んだことを支えに、どんなに高く厚い壁も乗り越えていきます。本当にありがとうございました。皆さんの人生が、希望に満ちた輝かしいものであることを在校生一同心よりお祈りしております。改めまして、本日はご卒業おめでとうございます。

## 卒業生 お別れの言葉

3月中旬に差し掛かり、この校舎でも春の暖かさが少しずつ感じられるようになってきました。本日は、私達卒業生のために、このような素晴らしい式を行ってくださり、心より感謝申し上げます。

3年前、この体育館で行われた入学式が懐かしく思い出されます。あれから3年。一日一日がかけがえのない思い出で、それでいてあっという間の3年間でした。私は中学校入学と同時にこの札幌に引っ越してきました。新しい中学校、なれない制服、初めて会うクラスメートや先生方。初めのうちは期待よりも不安の方が大きかったかもしれません。それでも、仲間と話し、過ごしていくうちに、不安は薄れていき、クラスに溶け込むことができました。2年生になると、新しく先輩ができました。「先輩」と呼ばれる声に緊張しながらも、自分にできることを考えて、先輩らしい、堂々とした振る舞いを目指しました。先輩とコミュニケーションをとる中で身につけた、先輩としての意識が今につながっていると思います。3年生では、いよいよ最高学年と言われるようになりました。学校でのお手本、学校の代表、そんな言葉を胸に、日頃から生活するようになりました。また、中学校生活最後の1年間として、やり残すことがないように、勉強、部活動、行事など、一つ一つ全力で取り組んできました。そのおかげで、最後までこの学年らしさを大切に、日々を送ることが出来ました。

そして、私が3年間の学校生活で最も大切にしてきたことがあります。それは、この学校の伝統、「挨拶」と「合唱」です。これは、入学式の時から、ずっと聞いてきた言葉です。私自身も何度も口にしてきました。私はこの2つの伝統をとても誇りに思っています。「挨拶」は人とのコミュニケーションには欠かせないものです。この先もずっと、何度もしていくものです。そんな大切な「挨拶」が、ここでは、明るく、元気に、爽やかに、前向きに、多くの人によってされています。私はこの学校の挨拶が大好きです。また、初めてこの学校の校歌を聞いたときは衝撃を受けました。自分に歌えるのか、とさえ思いました。しかし、だからこそ、全校生徒で歌ったときに、素晴らしい合唱になるのだと思います。私はこの学校の合唱が大好きです。この2つの伝統をもつ学校で過ごした3年間はとても充実していました。1、2年生のみなさんには、この伝統と、これまでの先輩達の思いを感じ、更に後輩たちへ託していけるよう、受け継ぎ、発展させていってほしいと思います。

この3年間、すべてが順調、というわけではありませんでした。悩み、苦しんだ日々もありました。そんなときに支えてくれたのは、やはり同じ学年の仲間の存在でした。ともに切磋琢磨し、ともに悔しがることのできたのは、仲間がいたからでした。みんなで笑い合う当たり前の日々があったのも、この素晴らしい仲間がいたからでした。これから先は、それぞれ別々の道を歩むこととなります。それでも、互いにこの日々を忘れることはないと思います。ここでの思い出を胸に、それぞれの道へ旅立っていきましょう。また、これまで私達が豊かな学校生活を送り、今日卒業を迎えることができたのは、先生方のおかげです。授業で、委員会で、部活動で、私達をいつも優しく、時には厳しく、指導してくださいました。先生方から教わったことは私達の大きな財産です。今後も大切に、これからの人生に生かしていきたいと思っています。先生方もぜひ、見守ってくださると嬉しいです。

そして、ここまで私達を育て、一番に応援してくれた家族には感謝してもしきれません。私達がこの3年間、安心して学校に通うことができたのも、家族の日々の支えがあったからです。中学生としての姿を見せるのは今日が最後ですが、今後も、更に成長した姿を見せられるよう、精一杯努力していきます。これからも楽しみにしててください。

3年前、私が小学校を卒業するときに、当時の先生がこんな言葉を贈ってくださいました。「出る月を待つべし。散る花を追うことなかれ。」そして3年後の今、私達はこの慣れ親しんだ梅色の校舎から卒業しようとしています。別れは寂しいものです。それでも、私達はこの先の未来への希望をもち、まっすぐと進んでいきます。卒業生、そして在校生一人一人が、これからも明るい未来に向かって生きていくことを願っています。

最後になりますが、この平岡の地で、かけがえのない仲間達や先生方と出会い、中学生としての大切な時間を過ごせたことをたいへん嬉しく思います。ここでの1分1秒が、私達の宝物です。これまで、私達の学校生活を支えてくださったすべての方々に、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。この平岡中央中学校、らお中がいつまでも発展していき、心寄せ合う学校となっていくことを、卒業生一同心から願っております。